



新たな切り口で道を究める

2013年の8月からこの「びわこレースガイド」で連載してきた『びわこ舟券マスターへの道』も、早いもので3年半が経過した。このあたりで、新たな切り口で真の「びわこ舟券マスター」を究めるべく、ちょうど新年度に突入した今号から『新・びわこ舟券マスターへの道』としてリスタートすることになった。

では、さっそく本題へ入ろう。

基本はデータの洗い出し

びわこファンや内外の関係者の間で囁かれている声に耳を傾け、その謎を解き明かそうと思う。再出発第1弾の声は「びわこのインが強くなった」というもの。もう何年もびわこに常駐する、誰よりもびわこでボートレースを観ている記者もそう語るのだから、かなりの真実味がありそうだが、本当にそうだろうか。

この種の問いかけの答えを導きだそうとするなら、やはりデータは不可欠だ。そこでさっそくデータの洗い出しを試みた。それが4年前の2013年と昨年の2016年の季節ごとのびわこ1コースの成績だ(下表)。最初の「春」の成績では1着率が全く同じで、変わった印象はまるで見受けられないが、「夏」にはいきなり両者の間には大きな差ができ、「秋」になるとその差はさらに広がった。

1着率だけでもその差は歴然だが、2連率や特に3連率では格段に1コースが強くなっているのがわかる。やはり常駐記者の印象に狂いはなかったということだ。しかもデータとして選んだ4年前の2013年は、実はオーナープロペラ制度以降のもので(2012年3月末に持ちプロペラ制度が廃止)、同じ条件下でないと比べる意味がないのでそうしたが、それ以前の、あのプロペラ絶対時代のデータを出せば、さらに数値は

大きく差がついただろう。

当時からずっとびわこボートに通う熟練ファンほど、「イン弱し」のびわこのイメージを根強く持っただけで済んでいるおそれがある。「イン受難水面」といえば「びわこ」と相場は決まっていたのだから。それをいまさら「インの強いびわこ」と言われても、ピンとこないのは当たり前だし、それを鵜呑みにして良いものかと思いつつも出てくるだろう。

しかし、ここではっきりしておきたい。以前よりびわこは「インが強くなっている」ということ、これはれっきとした事実だ。

イン強しの流れは全国的なもの

では、他場はどうなのか。びわこと同じようにインが強くなっているレース場はほかにもあるのだろうか。そこで今回のびわこのデータと同じ2013年と2016年(1年間)の全国24場の1コース1着率、2連率、3連率を調べてみた。そこで判明したことは、ほとんど全てのレース場が数値を上げていた、つまり「インが強くなっていた」ということ。

ちなみにびわこの昨年1年間の1コースの1着率、2連率、3連率は全国ランキングでいうと3部門とも21位であった。また、3部門とも最下位だった(インが最も弱い)のは平和島で、逆に3部門ともトップだった(インが最も強い)のは大方の予想どおり、大村だった。

21位といえば、24場中で下から4番目ということになる。つまり、びわこは依然として「インの弱い」水面の1つなのである。

なんだそれ、全然言ってることが違うじゃないか、とお叱りの声が飛んできそうだが、「インが強くなっている」のも事実だが、全国的に見ればまだまだ「インの弱い」水面なのだということ。しかもこれが大事なポイントだが、全国的にボートレースは「インが強くなっている」ということだ。こ

のことはしっかり覚えておきたい。もちろんそれには、シード番組や進入固定レースの増加というものが大きく影響しているのも事実だが、それがなくてもインが強くなっているという流れは確かに存在する。

2013年と2016年の季節別びわこ1コース成績状況

2013年			季節	2016年		
1着率	2連率	3連率		1着率	2連率	3連率
38.7%	57.2%	69.5%	春 (3月~5月)	38.7%	59.9%	71.2%
35.5%	54.5%	65.5%	夏 (6月~8月)	46.2%	65.1%	75.2%
38.0%	60.1%	69.9%	秋 (9月~11月)	50.4%	66.2%	78.4%
44.3%	63.6%	74.8%	冬 (12月~2月)	47.1%	68.3%	77.0%
38.7%	58.5%	68.8%	1年間 (1月~12月)	45.8%	65.4%	76.0%

